

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-10636

(43)公開日 平成5年(1993)2月12日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
E 04 F 13/14	1 0 2	E 7023-2E		
13/08	1 0 1	F 8913-2E		
13/14	1 0 2	D 7023-2E		

審査請求 未請求 請求項の数2(全4頁)

(21)出願番号 実願平3-58215

(22)出願日 平成3年(1991)7月25日

(71)出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72)考案者 吉田 朋秀

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株
式会社内

(72)考案者 濱 重徳

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株
式会社内

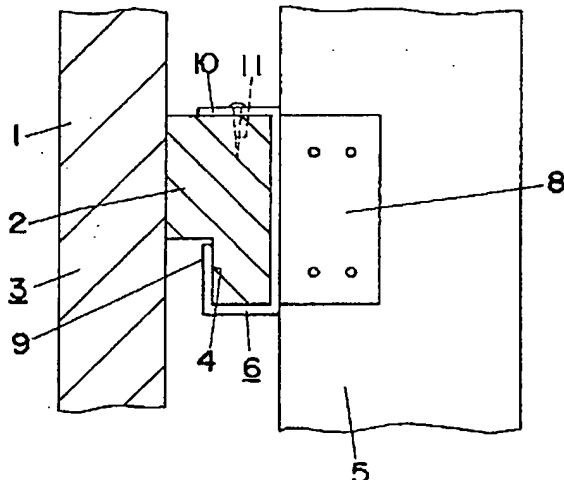
(74)代理人 弁理士 石田 長七 (外2名)

(54)【考案の名称】 壁パネルの取付け構造

(57)【要約】

【目的】 繊維セメント板のような無機質系の外装パネルを簡単且つ強固に取付ける。支持金具の取付け位置が異なっても外装パネルを確実に取付けることができる。

【構成】 繊維セメント板のような無機質系の外装パネル1の裏面に横方向の全長にわたり横桟2を取着して壁パネル3を構成する。横桟2に全長にわたり係止部4を設ける。柱等の壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6に壁パネル3の係止部4を係止する。



1 外装パネル
2 横桟
3 壁パネル
4 係止部
5 壁パネル取付け用下地材
6 支持金具

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 繊維セメント板のような無機質系の外装パネルの裏面に横方向の全長にわたり横桟を取着して壁パネルを構成し、この横桟に全長にわたり係止部を設け、柱等の壁パネル取付け用下地材に取付けた支持金具に壁パネルの係止部を係止して成る壁パネルの取付け構造。

【請求項2】 繊維セメント板のような無機質系の外装パネルの裏面に横方向の全長にわたり横桟を取着して壁パネルを構成し、この横桟に長手方向に一定間隔を隔てて複数の係止部を設け、柱等の壁パネル取付け用下地材に取付けた支持金具に壁パネルの係止部を係止して成る壁パネルの取付け構造。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の一実施例の断面図である。

【図2】同上に用いる壁パネルの斜視図である。

【図3】同上の係止部を示す拡大斜視図である。

【図4】本考案の他の実施例の断面図である。

【図5】同上に用いる壁パネルの斜視図である。

【図6】同上の係止部を示す拡大斜視図である。

【図7】本考案の更に他の実施例の断面図である。 *

* 【図8】同上の係止部を示す拡大斜視図である。

【図9】本考案の他の横桟の実施例を示す拡大斜視図である。

【図10】本考案の他の横桟の実施例を示す拡大斜視図である。

【図11】本考案の更に他の実施例の断面図である。

【図12】同上の係止部を示す拡大斜視図である。

【図13】本考案の他の横桟の実施例を示す拡大斜視図である。

10 【図14】本考案の他の横桟の実施例を示す拡大斜視図である。

【図15】本考案の他の横桟の実施例を示す拡大斜視図である。

【符号の説明】

1 外装パネル

2 横桟

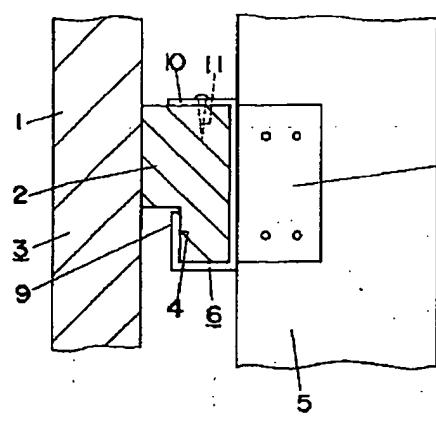
3 壁パネル

4 係止部

5 壁パネル取付け用下地材

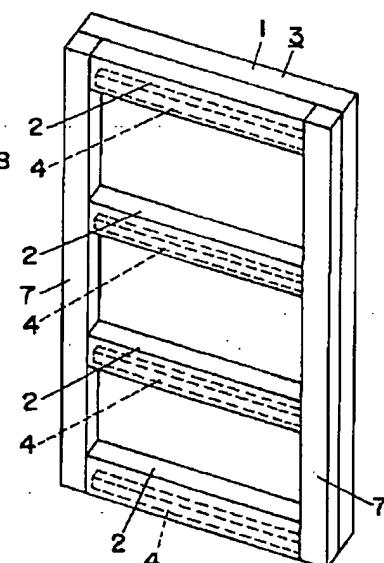
20 6 支持金具

【図1】

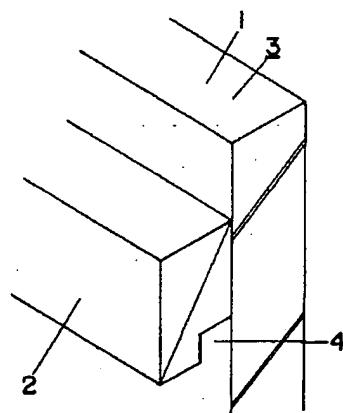


1 外装パネル
2 横桟
3 壁パネル
4 係止部
5 壁パネル取付け用下地材
6 支持金具

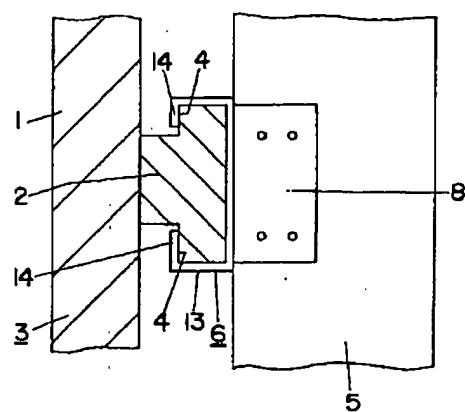
【図2】



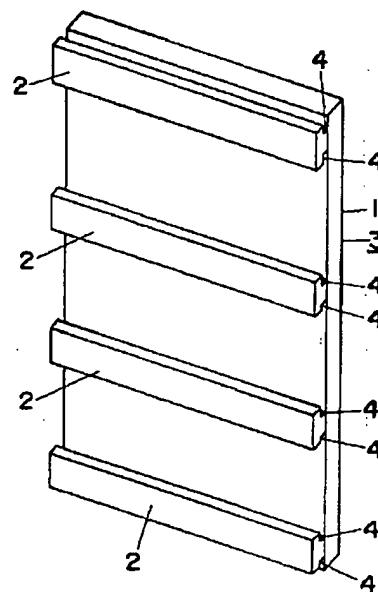
【図3】



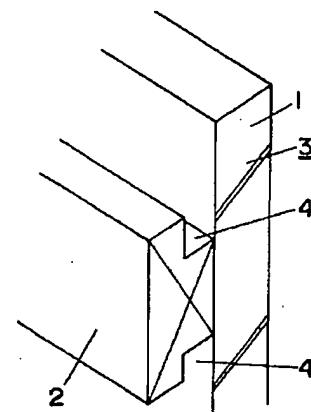
【図4】



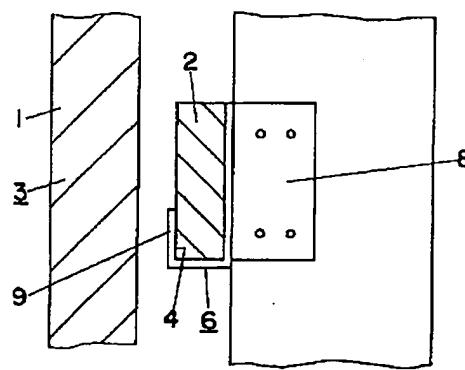
【図5】



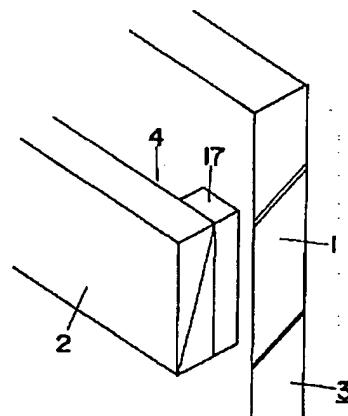
【図6】



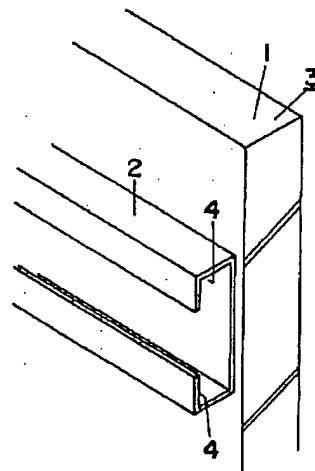
【図7】



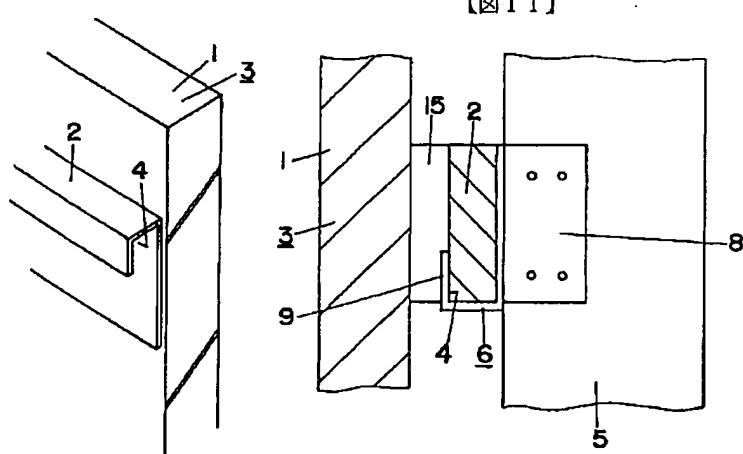
【図8】



【図9】

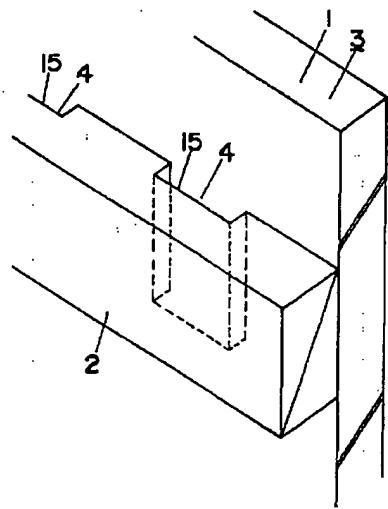


【図10】

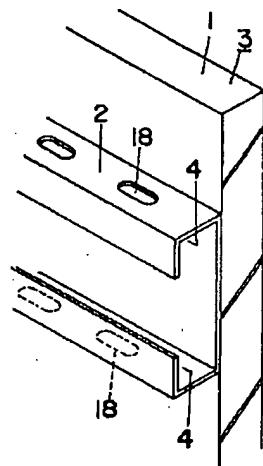


【図11】

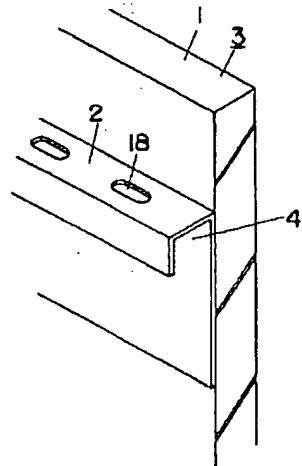
【図12】



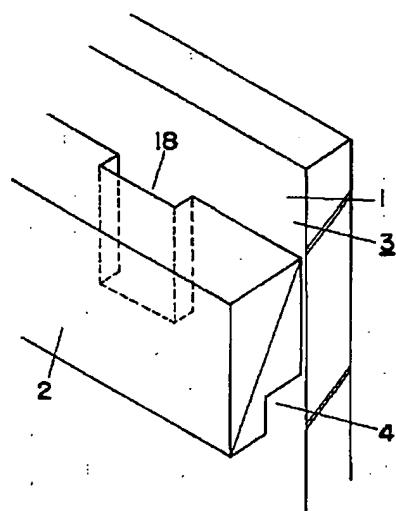
【図13】



【図14】



【図15】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、纖維セメント板のような無機質系の外装パネルを主体とする壁パネルを取付ける技術に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来から纖維セメント板のような無機質系の外装パネルが知られている。この無機質系の外装パネルは例えば柱の前面に胴縁を取着し、この状態で外装パネルを釘やビスにより現場で取付けていた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

ところが、上記の従来例にあっては、直接外装パネルの表面側から釘やビスで固着するものであるから釘やビスが外装パネルの表面に露出して外観が悪くなり、釘頭等に錆が発生したりするという問題がある。このため、外装パネルの上下方向の端部を柱や胴縁に取付けた支持金具で支持し、支持金具は上下の外装パネルの上下端部を重ね合わせる際に外部に露出しないように隠すようにするものが考えられている。

【0004】

ところが、この従来例にあっては、纖維セメント板のような無機質系の外装パネルの上下方向の端部の一部を支持金具で支持するので、纖維セメント板のような無機質系の外装パネルの端部の支持金具で支持される部分に荷重が集中してこの部分が破損しやすいという問題がある。

本考案は上記の従来例の問題点に鑑みて考案したものであって、その目的とするところは、纖維セメント板のような無機質系の外装パネルを簡単且つ強固に取付けることができ、また、支持金具の取付け位置が異なっても確実に取付けることができる壁パネルの取付け構造を提供するにある。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記従来例の問題点を解決して本考案の目的を達成するため、本考案の壁パネルの取付け構造は、繊維セメント板のような無機質系の外装パネル1の裏面に横方向の全長にわたり横桟2を取着して壁パネル3を構成し、この横桟2に全長にわたり係止部4を設け、柱等の壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6に壁パネル3の係止部4を係止して成る構成とした。

【0006】

また、繊維セメント板のような無機質系の外装パネル1の裏面に横方向の全長にわたり横桟2を取着して壁パネル3を構成し、この横桟2に長手方向に一定間隔を隔てて複数の係止部4を設け、柱等の壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6に壁パネル3の係止部4を係止して成る構成としてもよい。)

【0007】

【作用】

しかし、外装パネル1の裏面に横方向の全長にわたり横桟2を取着して壁パネル3を構成し、この横桟2に全長にわたり係止部4を設け、柱等の壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6に壁パネル3の係止部4を係止することで、壁パネル3の表面に釘やビスが露出しないように取付けることができるようになった。そして、係止部4が横桟2の全長に設けてあるので、横桟2の長手方向のどの位置においても支持金具6に係止できるものであり、また、横桟2に係止することで、壁パネル3の主体を構成する外装パネル1が繊維セメント板のような無機質系のものであっても、外装パネル1の一部に部分的に支持のための荷重が集中せず、繊維セメント板のような無機質系の外装パネル1の破損を防止することができるようになったものである。)

【0008】

また、横桟2に長手方向に一定間隔を隔てて複数の係止部4を設けたものにおいても、支持金具6の位置に応じて任意の係止部4を選択して係止することができるようになったものである。)

【0009】

【実施例】

以下、本考案を添付図面に示す実施例に基づいて詳述する。図1乃至図3には

本考案の一実施例が示してある。壁パネル3は纖維セメント板のような無機質系の外装パネル1を主体とし、この外装パネル1の裏面に横桟2を横方向の全長にわたり接着剤またはビス止めにより取着して構成してある。横桟2は上下に複数設けてある。ここで、横桟2の全長にわたって係止部4が設けてある。図2の実施例においては外装パネル1の裏面の両側に縦桟7が取着してある。そして、この図2に示す実施例のものは図3に示すように、木製の横桟2の下面部の外装パネル1側が全長にわたり溝となっていてこの溝が係止部4となっている。このような構成の壁パネル3は図1に示すようにして取付けるものである。すなわち、壁パネル取付け用下地材5である柱に支持金具6の取付け片8を釘打ちやビスにより固着してL字状をした支持片9と支持片9の上方に位置する横片10とを壁パネル取付け用下地材5である柱の前面側に突出させる。そして、この支持片9に壁パネル3の横桟2の係止部4の任意の位置を引っ掛け係止し、横片10から釘11やビスを横桟2に打ち込んで取付けるものである。

【0010】

図4乃至図6には本考案の他の実施例が示してある。この実施例においては、木製の横桟2の上面部と下面部との両方にそれぞれ係止部4を全長にわたり設けてある。この実施例のものは図4に示すように、壁パネル取付け用下地材5である柱に取付けた支持金具6の前部のリップ付きコ字状部13の上下のリップ部14を壁パネル3の横桟2の上下の係止部4の任意の位置に係止して支持するようにしたものである。

【0011】

図7、図8には本考案の更に他の実施例が示してある。この実施例においては、木製の横桟2を纖維セメント板のような無機質系の外装パネル1の裏面にスペーサ部17を介して取付けてあり、横桟2と外装パネル1の裏面との間に隙間が形成できるようになっており、この隙間が係止部4を構成している。そして、図7に示すように柱のような壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6のL字状をした支持片9に横桟2の長手方向に設けた係止部4の任意の位置を係止するようにしてある。

【0012】

上記実施例では横桟2が木製のものの例を示したが、図9、図10に示すように横桟2が金属により形成してあってもよい。この金属製の横桟2の場合も上記と同様に柱のような壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6に横桟2の全長にわたり設けた支持部4の任意の位置を係止して壁パネル3を取付けるものである。この金属製の横桟2の場合には支持金具6もそれに対応した形状のものにするものである。

【0013】

図11、図12には本考案の更に他の実施例が示してある。この実施例では纖維セメント板のような無機質系の外装パネル1の裏面に横方向の全長にわたり横桟2を取着して壁パネル3を構成し、この横桟2に長手方向に一定間隔を隔てて複数の縦溝15を設けて係止部4を形成してある。この実施例においては柱のような壁パネル取付け用下地材5に取付けた支持金具6のL字状をした支持片9に横桟2の長手方向に一定間隔で設けた係止部4のうち任意の係止部4に係止するようにしてある。

【0014】

ところで、図13、図14、図15に示すように横桟2に通気孔18を形成すると外装パネル1の背面において横桟2を貫通して上下方向に通気ができるものである。もちろん、図8、図12に示すものも外装パネル1の背面において横桟2を貫通して上下方向に通気ができる。

【0015】

【考案の効果】

本考案にあっては、叙述のように、纖維セメント板のような無機質系の外装パネルの裏面に横方向の全長にわたり横桟を取着して壁パネルを構成し、この横桟に全長にわたり係止部を設け、柱等の壁パネル取付け用下地材に取付けた支持金具に壁パネルの係止部を係止してあるので、係止という簡単な手段により壁パネルを取付けることができ、従来のように壁パネルの表面に釘やビスが露出せず、外観が良くなるものである。しかも、係止部が横桟の全長に設けてあるので、横桟の長手方向のどの位置においても支持金具に係止できるものであり、また、横桟に係止するものであるから、壁パネルの主体を構成する外装パネルが纖維セメ

ント板のような無機質系のものであるにもかかわらず、外装パネルの一部に部分的に支持のための荷重が集中せず、繊維セメント板のような無機質系の外装パネルの破損を防止することができるものである。

【0016】

また、横桟に長手方向に一定間隔を隔てて複数の係止部を設けたものにおいても、支持金具の位置に応じて任意の係止部を選択して係止することができるものである。